

第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）
3月上旬までに上記ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと合わせてご活用ください。

～鉄鉱石や食料品値上げのインパクトの試算について解説しています。

2008/3/6 「鉄鉱石の値上げによる物価への影響」

2008/2/22 「輸入小麦 30%値上げのインパクト」

掲載カテゴリ：日本経済分析チームによる「日本経済の羅針盤」

～世界のマーケットに広がるサブプライム問題の波及構造についてコメントしています。

2008/2/20, 3/10 「崩壊する信用バブル（上）（中）」

掲載カテゴリ：鳥峰義清の「マーケットウォッチング」

～海外の政府系ファンドの対日投資ほかについて考察しています。

2008/2/27 「政府系ファンドからの投資を考える」

2008/2/20 「インフレ加速の中に潜むデフレ構造」

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～注目される米国、新興国ほか海外経済の情報をお届けします。

2008/3/14 「海外 経済指標・イベント予定 “Weekly Global Economy”」（毎週金曜配信）

2008/3/6 「インド経済事情：10-12 月期のインド経済は堅調な成長を持續」

掲載カテゴリ：桂畑誠治の「米国経済を探る」、西濱 徹の「アジア・新興諸国経済」

編集後記

入学式の季節がやってきた。新入生ではないが、先日ロータリークラブの活動をお手伝いして、二日余り私どもの研究所で高校生の会社体験プログラムをお世話した。グループの保険事業も私どものシンクタンクの仕事も高校生の日常生活ではあまりなじみがない。仕事の意義を彼女たちにどのように伝えようかと研究員とともに頭をひねった。特に研究対象である「経済とはなにか」を分かっていたくことでは、むしろ私たちの方が、不勉強と説明力の乏しさを痛感する経験だった。

この時期、ちょうど昨年 10-12 月期の国内総生産（GDP）速報値が発表された。悪化する景況感にも関わらず GDP 成長率は大方の予想を上回った。当経済研究所の新家主任エコノミストによると、統計数値算出上の技術的な要因により、実感と違う部分があったという。高校生に説明しようとした経済の姿は、実はそれを表現した数字を見て、分かったつもりになっていることが多いのかもしれない。

一方冒頭の高校生たちがごく自然に興味を示したものに、保険会社が活用するキャラクターグッズがあった。知的財産であるキャラクターの価値、理屈なしの訴求力、いわゆる分かりやすさにあらためて関心した。これに引き換え、先ほどの「経済」や入門者にとっての「投資」は分かりにくい。見たり触ったりできない投資商品について、本人が頭をひねって考えるより、強烈な成功体験談や勧める人の有無を言わせぬ説明に身を委ねる方が心地よく感じることもある。こちらの「分かりやすさ」は全く根拠のない儲け話にあっさり引っかかる被害が後を絶たないことにつながる。高校生の皆さんには考えることの大事さを分かってもらえただろうか。

(H. U)